

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290300025		
法人名	医療法人 新光会		
事業所名	グループホームつながり		
所在地	419-9124静岡県田方郡函南町塚本77-7		
自己評価作成日	2009.10.8	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人環境福祉センター		
所在地	静岡県静岡市清水区万世町2-7-4		
訪問調査日	H21.10.20		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり・ゆったり・ありのままに・いつもにこにこ」の理念のもとに、利用者様・職員ともども笑顔の多い生活をしている。また看護師2名が常勤し、関連施設の伊豆平和病院との連携により、医療が必要となられた方に対し、素早く対処できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームからは、田園風景と富士山や香貫山などが眺められる。施設内外の造作は明るく、訪れる人に親しみやすい雰囲気である。室内は日当たりと風通しがよい。リビングは広く、利用者は動きやすく開放感がある。各ユニットには車椅子が入れる浴室とトイレが設置されている。各ユニットにつながる階段は広く、手すりが設置されており、利用者に暮らしやすい造りである。若い職員とベテラン職員が協働し、明るく笑顔で利用者に対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり・ゆったり・ありのままに・いつもにこにこ」を理念とし、これを見やすい場所に明示し、職員全員が毎日確認し、同じ理念のもとにチームで取り組んでいる。	理念は分かりやすい言葉で表現しており、各ユニット等の見やすい場所に掲示してある。職員の実践に問題があればホーム長が助言し、その内容を次の職員に引き継いでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩で出会う方々に率先して挨拶し、気軽に声をかけて頂いているが、地域の行事、活動への参加は積極的に行っていない。	自治会に加入しているが、日常的な交流はしていない。清掃活動を見せたり、子ども会の廃品回収には協力している。散歩中に地域の人たちに挨拶を交わしたり、近所の人から野菜の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム見学にこられた方に、実践している認知症介護を見ていただき、説明を加えている。昨年11月に認知症介護についての研修会を民生委員の方々に対して実施した。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ3ヶ月に1回しか開催できていない。サービス提供の状況を知ってもらい、認知症介護の理解を深めてもらう機会にはなっていない。まだ積極的な情報交換の場にはなっていない。	運営推進委員は、地域包括支援センター・民生委員・利用者の家族・区長・病院事務長等で構成し、三ヶ月に1回開催。積極的な意見が出ないため、内容の検討まで至っていない。	
5	(4)	○市町村との連携			

自己	外部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの主催する地域ケア会議に出席し、意見交換することしか行えていない。	市には、ホームの実情やケアサービスの取り組みについて折に触れ伝えている。地域包括支援センター主催の地域ケア会議に出席し、ホームの実情を伝えながらセンターとの連携を深めるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、出入り口は出入り自由となっており、屋内でも動きの制限をすることはない。やむおえず行う場合は、本人・家族に説明し確認を得ることになっている。	一人で外出しそうな利用者を常に観察し、止めるのではなく一緒についていく等安全面を配慮し、自由な暮らしを支えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は常に、自分および同僚の言葉・行為が虐待に当たらないか意識し、注意して防止に努めている。		

自己	外部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は理解しているが、職員は詳しい内容を理解していない。利用者には現在この制度を必要とする人はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明している。「入居後も不安・疑問が生じたらいつでも聞いてください」と話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム来所時には、利用者と同様に自宅のつもりで自由に振舞っていただくよう配慮し、気軽に話の出来る関係を作っている。	家族に直接会い、要望と意見を聞くようにし、何でも自由に言ってもらえる雰囲気づくりに留意している。 出された意見は運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングほか日常業務の中でも聞いており、反映させている。	毎朝のミーティングまたは職員同士の話から要望・意見を聞くようにしている。ミーティングの内容は全職員に伝わるように回覧している。 人事案件等の要望は本部に伝えるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が運営者に対し、職員個々の状況を報告できる場がある。人員配置、賃金、研修出席等への配慮がなされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育計画は立案できていない。管理者による機会教育を積極的に行っている。研修の機会がある時は、参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みはできていない。		

自己	外部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族から相談を受けたあと(入居決定後が多い)、必ず本人に会い話を聞き、入居時の不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から相談を受けたときにも聴くが、入居前の住居訪問時・入居後にもよく話を聴き、要望等を受け止めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の話をよく聞く。その後本人に会い必要としている支援をみきわめる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大家族の一員として、それぞれができることを共にあるいわ分担して行っており、助け合いながら良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者は家族であり、その家族も「ホームの家族」としてとらえた対応をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みのひとの協力を得て支援している。	かかり付け医への通院は、本人の意向によって家族に付き添ってもらっている。知人等に会いたい希望があった場合は、出来るだけ会わせるようにしている。また、宗教信者の集まり出席させるなど、それぞれの生活習慣を尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、皆で行動する時間を持ち連携を深めている。利用者どうしの微妙な関係を把握し、さりげない関わりをしている。いたわりあい・助け合いながら生活している。		

自己	外部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話連絡により関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での会話や行動から、ときには1対1でじっくり対話することで把握している。帰宅願望の強い時は、一人一人に合った方法で気持ちの満足が得られるように対応している。	日々のかかわりの中で声をかけ思いの把握に努めている。詩吟の出来る人にうたってもらったり、油絵を得意とする人の絵をディルムに飾るなどそのことによって明るい雰囲気醸しだしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から得られた情報を、朝のミーティングや記録により共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティング・個人記録の記載内容等で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況の変化にあわせて、それぞれの意見・アイデアを反映した介護計画を作成・変更している。	利用者と家族には、日常の中で意見を聞き反映させている。職員は勤務形態が異なるため、全員での意見交換は難しいので朝の引継ぎのとき意見やアイデアの確実なものを文書化して計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果記録が十分にできていないが、職員間での情報共有はできており、現状に即した計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化			

自己	外部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族・知人との外出や外泊は、本人に支障の無い限り、自由にしてもらっている。本人の居室に家族が泊まれることを伝えてある。		

自己	外部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防・救急隊のかたが防災訓練の時(年2回)に来訪されるので、いろいろな話をきくことができる。安心感につながる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望される場所で医療をうけていただいているが、希望のない時は同法人の伊豆平和病院またはその紹介病院で適切な医療をうけている。	本人・家族の希望している医療機関で医療が受けられる。その他、本人又は家族の同意のもとに、提携病院において医療行為は行われている。提携病院の存在は利用者にとって安心感があるものとなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム職員の看護師2名が健康管理と医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の病院と密接に連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに付いての話をしている。意見・同意を求めると、ほとんどの方がその時点での話し合いを希望されている。	重度化や終末期に向けた方針の共有は、職員間及び職員と利用者・家族間で話し合われている。ただ、そのような事例はあまりない。その点、提携病院との連絡及びその対応が適切におこなわれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	人形(エリック)を使い、救急蘇生訓練を行っている。昨年度3回実施。他応急手当マニュアルにそって対処している。		
35	(13)	○災害対策			

自己	外部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		<p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地震・水害を想定した具体的な防災計画ができていない。地震による屋内の危険回避の対応は実施している。</p>	<p>地震・水害を想定した具体的な計画はない。ただ、実際に対応した、火災・地震時における利用者の危険回避対応及びその行動パターンは、職員と利用者間で話し合われている。</p>	<p>地震・水害時を想定したマニュアルの策定が必要である。</p>

自己	外部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけや対応が、その人の誇り、プライバシーを損ねていないか、常に気をつけている。(排泄への対応・本人が思っている[現実]を否定しない等)記録にも配慮している。	利用者の尊重とプライバシーの確保は、保たれている。管理者は日頃から気をつけて利用者に接している。職員も利用者の尊重とプライバシーの確保について意識が高い。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えの衣服を選んだり、買い物に行き自分でほしい物を選んでもらったり、[どちらがいいですか?][…しましょうか?]等のなげかけで、その人にあった支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆で行動するのを好む人、一人で過ごすのを好む人、夜の就寝時間、食事時間等その日のその人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣等は本人が選べるように関わり、選べない人は、その人らしさ(お元気な頃)のもので選んでいる。理・美容は家族の協力を得ていぎつけの店で行っている。ホーム内で職員が行うこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・味見・盛り付け・配膳・食器洗い・食器拭き等それぞれの得意分野で、職員と一緒に力を発揮されている。旬の野菜や食材を前に話が盛り上がることもある。「おはぎ」作りは朝から小豆を煮ることから始まる。正月のおせち料理も皆で作る	食事における一連の作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援がなされている。利用者は自分の得意分野で力を発揮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	多くの種類の食材を使いつにしている。それぞれの食べられる量・運動量にあわせた盛り付けをし、咀嚼能力にあわせた形態・道具の工夫をしている。毎食に、汁物を付け、事あるごとにお茶・ジュース等、その時々に応じた物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを実施している。毎回、全員に声かけが必要で、それぞれの力に応じた量の介助をしている。ときに、過介助のこともある。		

自己	外部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗には何気ない対応、隠したい人には気づかない対応、時間をみはからい、あるいは排泄のサインを見逃さないように見守り(時に失敗することもあるが)トイレ誘導している。夜間は睡眠を優先して(おむつ等使用)あえて起こさない。	排泄の自立支援として、日常の行動の中で利用者を観察し、排泄パターンを把握している。トイレで用を足す支援がなされている。夜間における睡眠重視(オムツ使用)は、利用者に理解されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態・腸の動きをを観察している。毎日同時刻に腹部を圧迫することで排泄できている人もいる。水分補給、運動、食材等配慮している。現在下剤使用者2名、中止にむけて取り組む。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入浴できる態勢をどっている。強制はしないが、入浴してもらえ誘導は行う。ほとんどの人が毎日入られる。日中の入浴を基本としているが、夕食後を希望され、それに対応することもある。冬の「ゆず湯」は喜ばれている。	入浴は、利用者の希望にそって行われている。日中の入浴は、利用者の意向に沿った支援となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後早々に就寝準備に入る人、いつまでもテレビの前に居たりリビングを動き回り23時頃まで起きている人、ホットミルクを飲んでようやく眠りにつく人それぞれに合った支援をしている。日中の日光・外気欲が夜の睡眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常勤の看護師が管理しており、副作用について説明している。個々の服用している薬の説明書が、いつでもみられるようにしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの生活歴や力を活かした楽しみごと、の支援はまだ十分にはできていない。玄関の掃除を自分の仕事としている人もいる。毎日の散歩で、季節を感じ、すれ違う人と挨拶をかわし、時に犬とふれあう。雨天時は、得意歌やゲームで過ごす		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望がある時は一人あるいは職員とともに、時には家族の協力を得て出かけているが、行ってみたい場所を思いつかない人が多い。ドライブ・買い物・季節の花見・芋掘り・足湯等職員の提案で外出し、職員(時には家族も参加)も楽しんでいる。	日常的な外出は、利用者の希望に沿って行われている。職員の状況判断により、職員と一緒にの場合、また一人のときもある。年間行事としての花見、芋ほり等は喜ばれている。	

自己	外部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に子遣いとして現金を預かっている。希望があれば所持してもらおうが、「金庫にあずかり必要時にお渡しすることもできます。」と言うと、そのほうが安心と言う人が多い。買い物に行ったとき財布を渡し、自分で支払いをしてもらう人もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時は、ホームの電話機を使用している。番号操作を職員が介助することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の草花(散歩の途中でとってきたもの)や、季節の花等と、くつろげる家具を配置している。調理する音や、おいしいにおいが漂い、玄関のチャイムに「誰かきたよ」と反応し、普通の家庭の雰囲気になっている。	共同生活の中で個室の意味は重要である。その点、施設として、居心地よく、安心して過ごせる環境づくを支援している。馴染みのものの持込(趣味を活かしたもの)を通して、本人が落ち着いて過ごせるための工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれる場所はないが、椅子を窓がわに向けて、そこは結構孤独を楽しめる場所となっている。リビングの片隅の簡易畳・長椅子(2人用)・うす暗がりの1人用椅子等その時の気分で使い分けておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物を持ち込んでもらうよう話している。入居前の住居訪問時に、持ち込んでもらう馴染みの家具・道具を相談して決める事が多い。しかしほとんどの方が、リビングで過ごされている。	利用者は、居室とリビングで過ごしている。ただ、リビングにおける、利用者間の会話は少ないようである。しかし、職員は常に利用者を観察し、話しかけを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関は段差とスロープ・エレベーターと階段があり、それぞれの機能に応じた場所を利用している。屋内は各出入り口にある縦のにぎり棒・壁等に捕まり歩かれる。車椅子移動にも安全な広さを確保必要時漢字による明示もおこなっている		